



第 12 代 JAAGA 会長
杉山良行

日米エアフォース友好協会(JAAGA)、創立 30 周年、おめでとうございます。

JAAGA はこれまで、つばさ会の付属組織として航空自衛隊と米空軍の相互理解、友好親善の増進に多大なる貢献をされてきました。

近年の安全保障環境は「冷戦後で最も厳しく複雑」と評されますが、そんな中で日米同盟は世界で最も重要な同盟の一つと評価されています。特にインド太平洋地域では安全保障の柱であり、そうした中で JAAGA は同盟にとって大きな役割を果たしてきましたが、これからもその活動を強化して欲しいと思います。

一方、これまで常識としてきた価値観を否定する動きが顕在化し、同盟軽視の動きなど長年培い育ててきた財産を自ら台無しにする動きが生まれています。同盟国である米国がそうした動きの一つになってしまっているとの危惧と懸念を禁じえませんが、日本にとって日米同盟が基軸であることは当面変わらないことから米国を引き留める努力、日本が米国にとって「重要で同盟を維持しなければならない国である」ことを行動で示していくことが今、重要であり必要だと思います。軍組織相互、軍人個人相互の交流は国同士の関係の基礎です。ここに JAAGA の活動の重要性を求めるとともに今後の活動の方向性を決めるポイントがあるのではないのでしょうか。軍種の観点で見ると米空軍は既に空軍省の元に空軍とともに宇宙軍が設立されています。方や航空自衛隊は今年度、「航空宇宙自衛隊」になります。JAAGA は在日勤務を持つ米空軍将官を主体に特別会員を増やしてきましたが米宇宙軍将官がこれに加わることでこれまで以上に関係の厚みが増すとともに多様性も増加し、JAAGA の行う交流の重要性を更に増加させると思われます。また OB 組織には現役にはできない交流、意見交換、情報共有などを行う、ある意味「特権」があります。この特権を活かして現役の活動を補完する、所謂セカンドトラックの動きを強化することは新たな安全保障環境の中、日本の国益増進に貢献することが可能です。つばさ会としては米軍以外の同志国との OB 間の交流強化を模索しますが、JAAGA としても米空・宇宙軍との交流を中心に、あるいはそれを通じた他国との更なる交流の輪を広げることに期待したいと思います。